

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(3ユニット共通)

事業所番号	2792200228		
法人名	有限会社 さざなみ		
事業所名	グループホームさざなみ大池橋		
所在地	大阪市生野区中川西2-26-5		
自己評価作成日	令和4年5月17日	評価結果市町村受理日	令和4年7月20日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人ニッポン・アクティブライフ・クラブ ナルク福祉調査センター		
所在地	大阪市中央区常盤町2-1-8 FGビル大阪 4階		
訪問調査日	令和4年6月16日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者様には「残された力で暮らす喜び」を感じて頂けるよう、理念に基づいた支援を職員が意識し、実践しながら学びを得るように努めています。また、「楽しく・自由に・ありのままに」とお過ごし頂けるよう、入居者様に希望に沿ったレクリエーションを行っています。海外からの職員も居られ、様々な国の言葉や習慣に触れることができ、国際的な明るい雰囲気施設の施設となっています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

有限会社さざなみは医療・介護・人材派遣・教育部門を有し、介護部門は当事業所(大池橋)を含むグループホームと小規模多機能施設・有料老人ホーム・ヘルパーステーションなど、地域に根ざし様々な支援と運営が行われている。地域住民との交流や町内のイベント、桜祭り・夏祭りなどに利用者と積極的に参加してきたが、コロナ禍で参加も商店街買い物物外出も自粛中であり、終息を待ちわびている。
室内でのレクリエーション・生活リハビリを行い楽しく毎日を通せるよう職員は努力している。最近新しい管理者が就任し、系列の部長・部長補佐と共に「理念の理解と実践」に向けて取り組み中でありケアの質向上の知識・技術など勉強会・研修を積極的に行っている。職員面談で「家庭的な雰囲気がある所と感じる。働きやすい環境で自分たちの意見が素直に言える。聴いて貰える」「利用者同士が楽しく過ごし、時間がゆっくりして働きやすい。尊厳と節度を持ち専門職として頑張りたい」と調査日聴取している。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者の <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらい <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらい <input type="radio"/> 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族と <input type="radio"/> 2. 家族の2/3くらいと <input type="radio"/> 3. 家族の1/3くらいと <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	<input type="radio"/> 1. 毎日ある <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度ある <input type="radio"/> 3. たまにある <input type="radio"/> 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	<input type="radio"/> 1. ほぼ毎日のように <input type="radio"/> 2. 数日に1回程度 <input type="radio"/> 3. たまに <input type="radio"/> 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	<input type="radio"/> 1. 大いに増えている <input type="radio"/> 2. 少しずつ増えている <input type="radio"/> 3. あまり増えていない <input type="radio"/> 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての職員が <input type="radio"/> 2. 職員の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 職員の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての家族等が <input type="radio"/> 2. 家族等の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 家族等の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	<input type="radio"/> 1. ほぼ全ての利用者が <input type="radio"/> 2. 利用者の2/3くらいが <input type="radio"/> 3. 利用者の1/3くらいが <input type="radio"/> 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「安心、安全、快適な暮らしを」というスローガンを掲げて、入居者様・職員ともに穏やかな日々を過ごせるように心がけています。	事業所理念は1階フロアのリビングのよく見える位置に掲示している。理念は玄関口にはなく、各ユニットのスタッフ事務所で「さざなみの理念」と「さざなみ職員の心がまえ」をファイルに入れている。職員はいつでも閲覧できる様にしている。	法人理念は事業所がめざすサービスのあり方を示したものである、職員全員が「理念」を理解・共有し意識づけ・実践につなげるために、その「場」「機会」を設けられ実践を期待する。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染が著しい時期と重なり、毎年参加していた4月の桜祭り・8月の夏祭り・9月の敬老会など、地域との交流を控えざるを得ないと状況となっています。参加は難しいのですが、チラシを頂いたりして、交流を図っています。	地域の情報は町内会長や民生委員が書類やお知らせを持参し話しを伺っている。近隣の利用者家族からも情報が入る。現在は学校や地域交流は全て自粛中である。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	キャラバンメイトの活動は時間の許す限り参加していますが、参加できない場合はメールで意見を記載し、報告書を確認させて頂いています。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	コロナ禍で対面の開催が厳しいため、2カ月に1回、運営推進会議の代わりにアンケートを送付し、報告書で現状報告と、地域の方と意見交換を行っています。	2月に対面で運営推進会議を行ったが現在は書面開催であり、報告書を会議メンバーと利用者家族に郵送している。利用者・家族の意見や包括支援センター職員から情報や意見を頂き、意見交換を行うことで、より良い事業所運営をすすめていきたいと思っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	随時、生活保護担当者や介護保険課と連絡を取り合い、当施設での状況などを報告しています。福祉の担当が変わられたこともあり、双方で情報共有を図っています。	コロナ関連では保健所から感染予防対策と大阪福祉局でも指導がある。介護保険課と生活保護課には関連書類の提出物を持参し、問い合わせ等を行っている。生活保護課の担当者の訪問は無いが、電話連絡があり利用者の状況・状態を報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	新しい職員も増え、研修・勉強会の実地を進めています。以前から居る職員には初心に戻り、再認識を行っています。	身体拘束適正化の指針に基づき3ヶ月毎に会議を行い議事録を作成している。本社の年間計画でも毎月委員会があり、年2回の身体拘束・虐待防止の研修会に代表者が参加し、スタッフに内容を回覧して身体拘束をしないケアの周知に取り組んでいる。玄関口とエレベーターは事故防止で暗証番号にしているが閉塞感の無い対応をしている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	声掛け等によっても虐待となり得ることを理解し、職員同士が注意しあえる環境づくりを心掛けています。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	安心サポート等の方々とは話し合い、入居者様を担当して頂いている成年後見人の方のご意見も頂きながら、随時、活用させて頂いています。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時に、運営規定等の内容を説明し、ご不明な点や疑問点など、随時、お答えさせて頂いています。本人様・家族様にご理解して頂けるように、分かりやすい言葉を使用し、不安が残らないように対応しています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	定期的にアンケートを実施し、ご回答頂いた内容について開示させて頂いたり、面会時にご意見等を職員が聞き取りさせて頂いています。入居者様・家族様とコミュニケーションを図り、お気づきの点を報告して頂ける関係性を築いています。	本社から年1回家族アンケートを行いその内容はホームページに開示している。独居の利用者も多く、コロナ禍でもあり家族との交流は少ないが、個別に対応し傾聴を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月に1回の職員会議を設け、業務の見直しや資格取得研修の案内、施設内研修の提案等を伺い、職員が学びの機会を得て、働きやすい職場になるように努めています。	毎月全体の職員会議を月末に行って意見交換している。イベントやケアに関する内容が多く、肥満対策でおやつ提供の見直しや排泄支援でリハビリパンツの試みなど取り組み中である。人事考課表を用いた本社からの面談と事業所でも個別面談を行っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	年に数回、人事評価・実技評価を行い、面談を行うことで個人・事業所の課題を確認し、給与などにも反映出来るように取り組んでいます。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	基本的なケア方法の動画・マニュアルがあり、指導職員も新人職員に説明できるよう学び直すことができます。又、毎月の研修にて根拠のあるケアが行きえるよう基礎知識を高めています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同法人の管理者、ケアマネ、リーダーの研修・合同会議があり、理念に基づきケアに取り組む方法や情報交換などを行い、事業所の職員へ伝達・指導しています。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	家族様・担当ケアマネ・病院の地域連携室等から、本人様の状態(医療・介護・生活歴)を伺い、本人様の意向を伺いながら、相談時より話しやすい関係を築けるように努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご相談時にお困りの状況を伺い、家族様や本人様に当施設の見学をご提案し、対面でご相談を伺えるよう取り組んでいます。不安や要望に出来るだけ応えられるように努め、職員も心配り、心配りができるように表情や態度等をみながら、お声掛けています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当ケアマネや家族様から生活状況や要望を伺い、本人様の意向や要望を面談時に伺いながら、出来る限り今までの生活に近い支援ができるように努めています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は「お困りの部分をお手伝いする」という心掛けの下、家族様にも日常生活で出来ることに関わって頂き、協力を得ながら対応させて頂いています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人様の体調の変化や普段のご様子など、こまめに連絡を取り、本人様や家族様との連絡の架け橋となれるように努めています。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	遠い親戚や友人など、突然の来訪や電話対応などにも適時、ご対応し、安心してお過ごし頂けるよう努めています。生活保護や安心サポートの担当者が変わった場合は、関係性が築けるようになるまで同席させて頂いています。	家族から電話や手紙が届く、友人知人から時々電話があり取り次ぎ支援をしている。近くのスーパーに買い物に行き顔なじみの関係を作っている。商店街には馴染みの人や店が多くコロナ禍以前は、モーニングにも出かけていた。5月からは家族の面会を予約制で15分間行い、意見要望を聴いている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	食事・レク・行事などで一緒に過ごす機会を設け、職員が間に入りながら声掛けを行い、コミュニケーションを環境づくりに配慮しています。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	家族様・本人様の希望を伺いながら、ご相談・情報提供を行い、サービス終了後もフォローをさせて頂くように努めています。また、行政手続きの説明、フォローも支援しています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	3カ月に1回、家族様・本人様に希望や意向を伺い、出来るだけ対応するように努めています。職員間で望ましいケア方法等があれば、ご提案をさせて頂いています。	朝・夕利用者皆に声かけし、部屋で挨拶したり話をしながら要望を聞いている。日常ケアの中で会話をしながら気持ちや想いの把握に努めている。困難なケースはフェースシートなどを参考に家族の意見やケアマネジャー・スタッフの意見を参考に思いに沿うよう努力している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に家族様、担当ケアマネや病院の地域連携室、生活保護の担当者など、生活歴や既往歴等を伺い、本人様が安心して頂けるように環境を整え、入居後の支援に繋げています。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の食事量・バイタルチェック・お過ごしの様子を記録に残し、体調や心境の変化などの把握に努めています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	施設サービス計画書の作成前に、本人様・家族様のご意向を伺い、往診医等の意見も参考にし、各階の職員で会議を開き、介護支援計画書作成に取り組んでいます。	ケアプラン期間を暫定3ヶ月から短期6ヶ月間長期1年間としている。状況・状態変化時は利用者・家族、関係機関と話し合い担当者会議を開き状況に合ったケアプランに変更、家族・利用者に説明承諾を得てプランを更新再交付している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の生活状況や心身の状態を記録し、入居者様にとって望ましいケアや生活環境を検討し、必要な事柄を挙げて話し合い、見直しを行っています。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様や家族様から希望や要望が挙げられ、その都度、フロア会議や職員会議、カンファレンスで検討し、対応できるか話し合うようにしています。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域活動への参加は見合わせていますが、施設内の会議等に入居者様も数名参加をして貰い、地域に住む職員から情報を提供し、交流を図っています。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるよう支援している	かかりつけ医と訪問看護師とは24時間、連絡が取れるよう、医療連携の契約を交わしており、入居者様の安心と安全を保ち、信頼に繋がるような体制作りを行っています。	今までのかかりつけ医(皮膚科・整形外科・泌尿器科)への受診には主に職員が同行して受診している。往診や訪問診療(内科月2回、眼科、精神科)を受けている利用者もあり、看護師や訪問看護師の訪問、24時間ONコール体制のもとに健康管理がなされ利用者にとっては適切な医療を受けられる支援体制がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護師と連携をとり、体調の変化や急変時などに対し、24時間オンコールで対応して頂いています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様が入院して際は、ケアマネや管理者が病院に連絡・訪問するなど、病院の地域連携室や病棟看護師、担当医から情報を頂いています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化した場合は、本人様・家族様と意向や要望を伺いながら、主治医・訪問看護師も交えて今後の治療方針やケアを決めています。また、家族様の心理的負担も考慮して、声かけや相談を伺うなどの対応を行っています。	契約時に「重度化した場合の対応における指針」を示して説明を行い同意を得ている。医師から終末期に入ったとの判断の基にカンファレンスを行い今後の方針を示して家族には再度説明を行い同意を得ている。再度の看取りの研修、医師や看護師との24時間ONコール体制のもとにこれまでに4名の看取りを行っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	入居者様の急変や事故発生時に備え、全職員が救急対応や連絡手順等の研修・シミュレーションを行い、実行できるよう取り組んでいます。また、訪問看護師や管理者に連絡が取れる体制を整えており、電話での指示の下、実践で指導・習得に繋がっています。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災・地震・水害時等の災害時を想定し、夜間でも入居者様が安全に避難できる方法を全職員が研修・シミュレーションで身に付け、実施後に見直しを行っています。地域との共同訓練は見合わせていますが、在所確認等は協力体制を築いています。	年2回の消防訓練(夜間想定含む)を行い、台風時の水害訓練は自主訓練を行っている。地域との連携については事業所のイベント時に災害時地域の避難所としての役割を引き受けたりしている。水や食料等が備蓄されているが賞味期限に不安がある。職員は殆どが地域に住まいがあり緊急時には駆け付けられる強みがある。	事業所は平野川の近くという立地状況から、台風時の水害や災害時の地域との協力体制や備蓄の強化を図る事が急務であると思える。今後運営推進会議時に地域との協力体制や災害時の利用者の見守り等を再度説明して協力体制の強化を図りたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入職時・全体研修や日頃から指導を行い、入居者様の尊厳を保つ言葉かけやプライバシーの保護に努めています。また、職員同士で注意し合うなど気付きを忘れないよう努力しています。	法人の年間研修計画のもとに接遇マナー・尊厳・プライバシー保護研修が行われ管理者が出席のもとに伝達研修が行われている。利用者にはです、まず口調、さん呼びが基本だが、時にはフレンドリーな場合もあり、随時職員同士の注意体制がある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者様とお話する機会を設け、普段から思いを伺ったり、に意向を伺いながら、希望に添うように対応させて頂いています。また、言葉で伝えることが難しい方は、ジェスチャーや行動で示して頂くようお伝えし、職員が汲み取れるに心がけています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	お一人お一人の生活習慣を把握し、入居者様に希望を伺いながら、入居者様に沿った1日の過ごし方が出来るよう支援させて頂いています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	本人様や家族様と相談をしながら、個人の好みを尊重し、できる限り、ご希望に沿うようにしています。当日、来て頂く衣類も、本人様に選んでいただくようにしています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は献立に応じた食材が届き、施設内で調理しています。栄養バランスの整った献立を提供しており、殆ど完食されています。また、準備や片づけなどは手伝って頂いています。	献立付きの食材が毎日配達され、調理専門の職員が昼・夕食を手作りして提供している。コロナ禍以前のイベント時にはピザ、バーベキュー、お寿司等を、時には地域の人々を招いて一緒に楽しんでいたが今は中止となっている。おやつレクも運動不足の傾向で食べ過ぎてしまうという配慮から見直し中である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	お一人お一人の食事量や水分摂取量を記録し、入居者様の健康状態の把握に努めています。必要に応じて、栄養補助や健康食品もかかりつけ医に相談し、摂取して頂いています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	週に1回、訪問歯科が来設され、お一人お一人の口腔内を確認して頂き、歯磨きの仕方などを指導して頂いています。また、職員にもケア方法やケア用品などのアドバイスを頂いています。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者様お一人お一人の排泄パターンを把握し、出来るだけトイレで排泄が出来るよう、自立に向けた誘導・声掛けを行っています。記録に残し、時間帯等に変化があった場合も、柔軟に対応できるよう支援しています。	排泄は日中、基本は座位が取れる利用者には定時のトイレ誘導で、大半がリハビリパンツにより自立の利用者が多い。夜間は2時間ごとの見回りだが夜間のみおむつの利用者、定時声掛け等一人ひとりの状態に配慮した上での安眠支援体制がある。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分摂取量に制限のない方においては、1日1500CC以上を目標に定め、少ない方は朝の申し送りで確認をしています。水分量やお通じが出にくい場合は、随時、下剤の調整を行っています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	週2回の入浴は本人様の要望、体調等により調整し、提供させて頂いています。また、個々の希望や必要に応じて、入浴・足浴・手浴なども実地しています。	入浴は2方向介助浴槽で基本は週2回(1日3名)、希望により同性介助としているが、体調や嫌がる利用者には無理強いすることなく時間や人、曜日を交えたり、足浴しながらシャワー浴等柔軟に対応している。季節によって菖蒲、ゆず湯等で楽しんでいる。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	消灯時間は決めさせて頂いておりますが、今までの生活習慣で遅くまで起きている方も居られるため、個々に応じて、対応させて頂いております。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各フロアに薬情報ファイルを設置しており、職員が確認出来るようにしています。お薬の変更時は薬局から頂いている一覧を基に、直ぐに把握が出来る様に努めています。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯物量みや食事の片づけ、掃き掃除など、出来ることを進んで行って頂き、役割をになって頂いています。全館集まってののど自慢大会は控えておりますが、音楽鑑賞や作品作りなどで、気分転換が出来る様に努めています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナ禍により外出を控えさせて頂いておりますが、天気の良い日など、屋上に上がって頂いたり、パンの訪問販売で買い物をして頂くなど、少しでも外を触れ合える機会を設けています。 通院の方には時間の許す限り、近くを回って過ぎて頂くなど、本人様の希望を出来るだけ支援をしています。	コロナ禍の中で今は受診時のみの外出と制限が引かれている。その分イベントやレクリエーションに力を入れ、屋上での日光浴、駐車場でのティータイムを楽しんでいる。コロナ解除時には車で遠出、小学校での花見等を待ち望んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居時に家族様と相談し、お小遣い程度の自由に使えるお金を管理させて頂いております。本人様のご希望の品や必要に応じて、使えるように対応させて頂いております。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	各フロアに電話の子機を設置しています。ご希望の場合は掛けさせて頂いたり、家族様等からの電話もお繋ぎ出来るようにしています。電話の使用が難しい場合は、職員付き添って支援させて頂いています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有スペースは、毎日分担して清掃しており、清潔が保てるように努めています。また、楽しんで頂けるように、季節にあわせた壁面・作品を貼らせて頂いています。	共用のスペースにはソファ(2・3人掛け)が置かれ天井には24時間の換気設備、壁面には職員共に考えた折り紙による季節の花が飾り付けられている。1日2回の清掃が行われ感染予防対策と清潔が保たれている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	共有スペースは、好きな時間に好きな場所で過ごせるように環境を整えています。居室も入居者様同士が承諾されているようでしたら、行き来して、お話出来る場所となっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居される際は、自宅でご使用されていた家具や衣類などを持って来て頂き、出来るだけ馴染みのある物を使用して頂くことで、施設での生活に慣れて頂けるように努めています。また、本人様の希望により、模様替えも手伝わさせて頂いています。	居室の扉には一人ひとりの好みの花の折り紙表札が飾られ、ベッド、防災カーテン、エアコンが備え付けられている。利用者は衣装ケース、テーブル、寝具、家族の写真等、家族と相談して思い思いに持ち込み居心地よく過ごせる工夫がみられた。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	居室は全室個室であるため、個々の身体的状態やお好み等により、安全なベッドの位置・家具の配置に変更し、その方に沿った生活空間作りに努めています。		